

平成 29 年度第 4 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 30 年 2 月 23 日 (金曜日)
時間・場所	15 時 30 分～16 時 42 分・本庁舎 3 階庁議室
出席者	<p>久喜市長、新谷教育長、久保教育委員、新井教育委員、増田教育委員、浅見教育委員</p> <p>秩父市 PTA 連合会 出浦会長、吉川副会長、江田副会長 ※関係者</p> <p>市長室長、地域政策課長、地域政策課主査 2 名、教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、学校教育課長、学校教育課主幹、教育研究所長、市民部長、生涯学習課長</p> <p>傍聴人なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日、姉妹都市である韓国・江陵市を訪問した。ピョンチャン冬季五輪の外国人観光客が非常に多かった。ソウルから新幹線で日帰りで行かれる方が多いとのことだった。2020 年東京五輪を見据え、東京から近い秩父にも是非多くの外国人に来てもらいたいと思っている。海外戦略をしっかりと踏まえて、教育の面でも英語教育に力を入れていく。 ・今回は SNS について、議題として取り上げる。私は SNS を否定するわけではない。上手く活用できるよう、様々な意見をいただきたい。 ・また、今回は関係者として秩父市 PTA 連合会から正副会長 3 人に出席いただいた。積極的に意見をいただきたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩父市においては、新教育委員会制度が発足した平成 27 年 4 月以来、毎年度 4 回ずつ、本日を含め通算 12 回の総合教育会議が開催されている。市長、教育委員、教育長の率直な協議の場となっており、それぞれの協議が、施策、予算のパッケージとして実を結んでいるということで、実質的な意義もある会議となっていると感じている。まさに、新制度の趣旨に沿った形で運営していただいていることに対し、市長、事務局のみなさんに、感謝申し上げたい。 ・本日の議題の「SNS」について、マスコミ等でも悲しい事件が報道されている。学校においても様々な形で指導を行っているが、使用の実態が、学校内だけではなく、家庭や地域における使用もあり、なかなか十分な指導に至っていないのが現状である。 ・今回、秩父市 PTA 連合会からもご出席いただいている。家庭での使用の実態や保護者の考え等を率直にお伺いしたい。

- ・市長主宰の会議であるので、是非、市をあげて、学校、家庭、地域、関係機関等を巻き込んで、取り組めるような対応策を議論したい。
- ・秩父市の子供たちを決して不幸な事件に巻き込むことの無いよう、よろしくお願ひしたい。

○議事

(1) 前回までの議題に関する対応状況について

- ・今年度第2回会議で取り上げた「就学前教育について」、その後の対応状況の報告をお願いする。(市長)
- ・8月に行われた会議における議論の中で、新教育要領・保育指針において、「育みたい資質・能力」として3つの柱、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の事項が共通に示されたことに着目し、市として共通の取組を実施しようということになっていた。1月に、福祉部と教委との連携により、市としては初めてとなる、公立幼稚園・保育所、私立幼稚園・保育園、認定こども園の先生が一堂に会する研修会を開催した。参加者からも好評を得た。今後も引き続き実施していくよう検討している。(教委事務局)

→継続的にとは、年に何回程度行うのか。(市長)

→年1回の実施を考えている。(教委事務局)

(2) SNSについて

- ・資料及び参考資料1・2について教育委員会事務局から説明。
- ・関係者(市P連 正副会長)から、追加資料をもとに、保護者の立場から意見発表。
- ・最近の子どもたちは、携帯電話、スマートフォン(スマホ)、小型ゲーム機などに幼少期から当たり前のように接している。電話やメールの手段としてよりも、SNSや動画サイトを中心に、インターネットへの接続ツールとして認識している。また、公衆無線LANやWi-Fiなど、容易にインターネットに接続できる環境があちこちにあり、保護者の監視が行き届かない面がある。(市P連)
- ・秩父二中校区では昨年アンケートを実施した。各家庭の事情もあるとはいえ、テレビ、ゲーム、インターネットを長時間行っている子が少なくない。二中生活委員会では、生徒主体でスマホのメリット・デメリットの検証に努めている。ノースマホデーの実施などといったアイデアが出ている。(市P連)
- ・しっかりした家庭だけではなく、色々な家庭がある。子どもたちの「良い悪い」を判別する力、保護者の当事者意識を高めることが必要。市、教委、学校、PTAで連携し、全体として取り組んでいければ良い。ス

マホ（について考える）週間やノースマホデーなども良い。また、保護者、生徒など対象ごとのセミナー開催や、育成会との連携も有効と考える。秩父市だけでなく、広く連携して取り組んでいければ尚望ましい。（市P連）

- 母親の立場として、小・中学校で意見交換会を実施し、各家庭で意見交換するよう提案した。グループLINEのトラブルが判明するなどの効果があった。基本的には保護者が管理、判断すべきと考えるが、どう管理すべきかどうか、難しいのも事実。子どもたちは生まれた時から当たり前にある環境ということから、親子間にSNSに対するギャップがある。親の中にも有効に使っている方がいて、そのような方は子どもの利用も上手に管理している。知識が少ない人ほど、不安が強く、厳しい管理になりがちのようだ。前向きな使い方を知る必要があり、親と子が共に学ぶことが望ましい。我が家は子どもに持たせていない。持たせていないことが、親子間で素直に感情をぶつけあう良い効果をもたらしている面もあると感じている。危ないからというだけで持たせないようにするのは、かえって逆効果だと思う。高校生になって持たせて、いきなり抑圧から解放されて使い過ぎになってしまうというケースを聞いた。（浅見教育委員）
- 平成27年に市P連と各学校PTA会長の連名で、携帯・スマホの安全な使用の仕方について各家庭で話し合ってください、という内容のお願いを文書で出していたと記憶している。それから2年半、今日話を伺っていて、また何らかの対策、働きかけをしていかないとならない時期だと感じる。関係機関と連携し、注意点を示して、各家庭でのルール作りを促すことも良いのではないか。もう一点、スマホを制限するかどうかという問題とは別に、家族、友達関係などのストレスから逃げる先としてのスマホという側面もあると感じている。温かい家庭環境、学校、地域における居場所づくりも必要なのでは。（新井教育委員）
- 浅見委員の指摘の通り、今の子どもたちは生まれた時から当たり前のように情報機器が身の回りにある環境である。時代としてどう扱っていくかということだと思う。今思うこととしては、親にも子にも適切な使用方法を学ぶ必要があり、そういった機会が必要。親と子が別々に学んだ後に親子間で話し合っすり合わせるスキームが良いのではないか。予算が必要となれば、市長にもお願いしなければならないかもしれない。先日、都内に行く機会があったが、電車の中では皆スマホをいじっている。こんな時代にただダメとは言えない。（増田教育委員）
- 私はアナログ世代だが、家ではタブレットを活用している。アンケート結果を見ると、ソーシャルメディアでトラブルのあった子が7人い

たとある。たった7人といった問題ではない。どうにかしていかないと
ならない。その他にも、住所をのせても良いと考えているとか、ル
ールを決めていないとかいった現状が伺える。薬物乱用防止教室でや
っているように、学校を中心として、意識を高めてもらう取組が必要
なのではないか。社会教育的な側面もあると思うが、市として取り組
んでいるものはあるのか。(久保教育委員)

→青少年育成秩父市民会議で、昨年6月に講師を呼んで話を聞くとい
う取組を行っている。(市民部)

- ・教育委員会でも行っているのか。(久保教育委員)

→それぞれの学校で危機感を持ちながら取り組んでいる。各学校が全
部把握できているわけではなく、もう少し実態について話し合っ
ていきたいと考えている。市P連の方たちに伺いたい、スマホ利用
に関する危機意識というのはどの程度共有されているものなのか。

(教育長)

→中高生の親は危機意識を持っていると思う。小学校低学年くらいに
なると、平成生まれの保護者もあり、その辺を境に違ってきている
かもしれない。(市P連)

- ・ルールを守る(守らせる)のが難しいという面もあるのだろうか。(教育長)

→保護者の中には(夜など)簡単に子どもにスマホを渡している親も
いるし、渡した後で反省している親もいる。情報発信して、話し合
いのきっかけを提供するようにしたい。(市P連)

- ・ルールのもとになるものは、どこが作れば良いと思うか。(教育長)

→PTAからだけだと効果がやや薄いと思っている。PTAも含め新たに協
議会を立ち上げるのも良いし、既存の組織から出すのも良いの
では。(市P連)

- ・そろそろ議論をまとめた。私はスマホにしろ何にしろ、無理やり禁
止することはできない、無理やり禁止すると、逆に不幸になると思っ
ている。上手に使えるような知識をつける環境を作っていきたい。個
人的には、利用ルールを定めていない家庭が多いことに驚いた。理想
としては親子で共に学ぶのが良いと思うが、実際には難しい面もある
だろう。まずは子は子で、親は親で学び、そこから接点を作ってい
きたい。主体となるのがPTAなのか教委なのか難しいところがあるが、
教委とPTAで協力し、スマホやSNSに関して子どもたちにしっかり理
解してもらうような取組を進めていってもらいたい。親に対しても同
様。一番危ないのは、何も知らないで入って行ってスマホ漬けになっ
てしまうことである。デジタルな世界だけでなく、実体験で感動でき
るような機会があると良いと思うがどうか。(市長)

→基本的には学校単位で、PTA などでも取り組んでいる。(教委事務局)

→市全体で、学期ごとに1回など出来ると良い、その際はPTAの協力も得てもらいたい。(市長)

・どのような講師に頼むかも大事。もっと広く、市民全体、社会教育、青少年という枠組みで考え、階層を付けて取り組んでいくことも考えられる。市全体で考え、それから各学校で取り組み、子ども主体の取組につなげていくことも有効だと考える。教委でもしっかり支援していく。(教育長)

・青少年育成秩父市民会議を巻き込んだ形で、議論していきたいと思う。今回は市P連の皆さんに貴重な意見を伺った。今後も機会があれば、また出席願いたい。(市長)

○その他

・特になし

以上